《開幕》ルイーズ・ブルジョワ展：
地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ

2024年9月25日(水)ー2025年1月19日(日)　森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

森美術館は、2024年9月25日(水)から2025年1月19日(日)まで、「ルイーズ・ブルジョワ展：地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ」を開催します。

ルイーズ・ブルジョワ(1911年パリ生まれ、2010年ニューヨークにて没)は、20世紀を代表する最も重要なアーティストの一人です。70年にわたるキャリアの中で、インスタレーション、彫刻、ドローイング、絵画など、さまざまなメディアを用いながら、男性と女性、受動と能動、具象と抽象、意識と無意識といった二項対立に潜む緊張関係を探求しました。そして、対極にあるこれらの概念を比類なき造形力によって作品の中に共存させてきました。

ブルジョワの芸術は、主に自身が幼少期に経験した、複雑で、ときにトラウマ的な出来事をインスピレーションの源としています。彼女は記憶や感情を呼び起こすことで普遍的なモチーフへと昇華させ、希望と恐怖、不安と安らぎ、罪悪感と償い、緊張と解放といった相反する感情や心理状態を表現しました。また、セクシュアリティやジェンダー、身体をモチーフにしたパフォーマンスや彫刻は、フェミニズムの文脈でも高く評価されてきました。

さまざまなアーティストに多大な影響を与えているブルジョワの芸術は、現在も世界の主要美術館で展示され続けています。日本では27年ぶり、また国内最大規模の個展となる本展では、100点を超える作品群を、３章構成で紹介し、その活動の全貌に迫ります。

本展の副題「地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ」はハンカチに刺繍で言葉を綴った晩年の作品からの引用です。この言葉は、ブルジョワの感情のゆらぎや両義性を暗示しつつ、ブラックユーモアのセンスをも感じさせます。自らを逆境を生き抜いた「サバイバー」だと考えていたルイーズ・ブルジョワ。生きることへの強い意志を表現するその作品群は、戦争や自然災害、病気など、人類が直面する、ときに「地獄」のような苦しみを克服するヒントを与えてくれることでしょう。

《ママン》　1999／2002年
ブロンズ、ステンレス、大理石　9.27× 8.91 ×10.23 m
所蔵：森ビル株式会社(東京)

《無題(地獄から帰ってきたところ)》　1996年　刺繍、ハンカチ　49.5×45.7 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比)、070-4303-0744(松川)　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ルイーズ・ブルジョワ 略歴

1911年パリでタペストリー専門の商業画廊と修復アトリエを経営する両親の次女として生まれる。父親の支配的な態度、病気に苦しむ母親を長きにわたり介護していたことが、幼いブルジョワに罪悪感や裏切りの感情、見捨てられることへの恐怖心を植え付けた。1932年、二十歳のときに母親が死去。同年に、ソルボンヌ大学数学科に入学するも、母を亡くした悲しみからアーティストとしてのキャリアを志望するようになる。その後、ソルボンヌ大学、パリ国立高等美術学校、エコール・デュ・ルーヴル、アカデミー・ドゥ・ラ・グランド・ショミエールでアートを学ぶ傍ら、フェルナン・レジェを始めとするアーティストのスタジオに通う。1938年、アメリカ人美術史家のロバート・ゴールドウォーターとの結婚を機にニューヨークに移住し、1940年代半ばから作品を発表。1957年にアメリカの市民権を取得。1982年には女性彫刻家としては初となるニューヨーク近代美術館での大規模個展が開催された。1989年フランクフルト芸術協会(ドイツ)にてヨーロッパでの初個展を開催し、1993年にベネチア・ビエンナーレのアメリカ館の代表となる。以降、ポンピドゥー・センター(パリ、1995年)、横浜美術館(1997年)、テート・モダン(ロンドン、2000年)などで重要な個展を開催。2010年に他界。

没後もバイエラー財団(スイス、バーゼル、2011年)、フロイト博物館(ロンドン、2012年)、ストックホルム近代美術館(2015年)、ハウス・デア・クンスト(ドイツ、ミュンヘン、2015年)、ニューヨーク近代美術館(2017年)、龍美術館(中国、上海、2018年)、ヘイワード・ギャラリー(ロンドン、2022年)、メトロポリタン美術館(ニューヨーク、2022年)、ベルヴェデーレ美術館(ウィーン、2023-2024年)、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館(シドニー、2023-2024年)など、世界の主要美術館で個展が開催されている。

自身の版画作品《聖セバスティアヌス》(1992年)の前に立つルイーズ・ブルジョワ。
ニューヨーク、ブルックリンのスタジオにて。
1993年
撮影：Philipp Hugues Bonan
画像提供：イーストン財団(ニューヨーク)

開催概要

展覧会名：「ルイーズ・ブルジョワ展：
地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ」
主催：森美術館、読売新聞社、NHK
協賛：ゲラン株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社大林組、株式会社竹中工務店、トヨタ自動車株式会社、三機工業株式会社
特別協力：イーストン財団
協力：全日本空輸株式会社
＊本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けています。

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)、矢作 学(森美術館アソシエイト・キュレーター)
企画監修：フィリップ・ララット＝スミス(イーストン財団キュレーター)
＊本展覧会はニュー・サウス・ウェールズ州立美術館(シドニー)で、ジャスティン・パトン(インターナショナル・アート 主任キュレーター)とエミリー・サリバン(インターナショナル・アート アシスタント・キュレーター)が企画した「ルイーズ・ブルジョワ：昼が夜を侵略したのか、夜が昼を侵略したのか」展の一部をもとに、森美術館がイーストン財団(ニューヨーク)と共同で企画したものです。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219(日比)、070-4303-0744(松川)　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

会期：2024年9月25日（水）－2025年1月19日（日）
会場：森美術館（東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階）
開館時間：10:00-22:00（火曜日のみ17:00まで）
＊ 入館は閉館時間の30分前まで　＊会期中無休
＊ただし、9月27日（金）・28日（土）は23:00まで、10月23日（水）は17:00まで、12月24日（火）、12月31日（火）は22:00まで

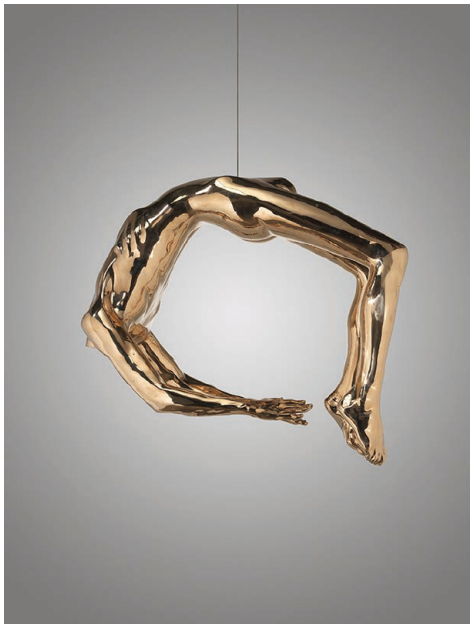
入館料：

	［平日］		［土・日・休日］	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生（高校・大学生）	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
子供（中学生以下）	無 料			
シニア（65歳以上）	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

＊ 事前予約制（日時指定券）を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。
＊ 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
＊ 表示料金は消費税込。
＊ 本展のチケットで、同時開催プログラム「MAMスクリーン020：ゴースト―インターベンション」「MAMプロジェクト032：バディ・ダルル」もご鑑賞いただけます。
＊ 2024年12月30日（月）–2025年1月3日（金）は、［土・日・休日］料金となります。

巡回情報：会期：2025年3月8日（土）－6月23日（月）　会場：富邦美術館（台湾）

一般のお問い合わせ：Tel：050-5541-8600（ハローダイヤル）　森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



左
《ヒステリーのアーチ》
1993年
ブロンズ、磨かれたパティナ
83.8×101.6×58.4 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

右
《シュレッダー》
1983年
木、金属、塗料、石膏
244.2×218.4×289.6 cm
撮影：François Fernandez
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。
https://tayori.com/f/louisebourgeois/

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展の特徴とみどころ

27年ぶりとなる国内最大の個展、作品の約8割が日本で初公開

1997年以来、27年ぶりに開催される国内最大規模の個展で、彫刻、絵画、ドローイング、インスタレーションなど100点以上を一挙に公開します。

ブルジョワは98歳で他界するまで制作を続け、晩年にキャリアの代表作ともいえる作品を多く発表しています。布を用いた作品など、本展出品作品の約8割が、日本初公開の作品となります。

《カップル》 2003年
アルミニウム　365.1×200×109.9 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

世界的な評価が高まる初期絵画作品を展示

ブルジョワがニューヨークに移住してから約10年の間に制作された初期絵画作品に注目した展覧会が、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、2022年）やベルヴェデーレ美術館（ウィーン、2023-2024年）で開催され、近年世界的に高い関心を得ています。本展では、アジア初公開となる10点以上を含むこれらの初期絵画作品をまとめて展示します。

ブルジョワは、1938年、アメリカ人美術史家のロバート・ゴールドウォーターとの結婚を機にパリからニューヨークに渡りました。その頃描かれた絵画には、自画像、家、フランスに残してきた家族、植物、自然、さまざまな建築的なフォルムなど、その後数十年にわたって繰り返される重要なモチーフが登場します。なかでも、女性を守ると同時に縛りもする家によって上半身が覆い隠された女性像を描く「ファム・メゾン（女・家）」シリーズは、1960-70年代のフェミニズム運動で高く支持されるなど、ブルジョワのキャリアを象徴する作品群のひとつです。

《堕ちた女[ファム・メゾン（女・家）]》
1946-1947年
油彩、リネン
35.6×91.4 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

《家出娘》
1938年頃
油彩、木炭、鉛筆、キャンバス
61×38.1 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

六本木ヒルズを象徴するパブリック・アート《ママン》をはじめ、蜘蛛をモチーフとした作品を紹介

1947年に描かれた小さなドローイングから、その後制作された大きなブロンズの彫刻に至るまで、蜘蛛はブルジョワの芸術を代表するモチーフとして繰り返し登場してきました。彼女にとって蜘蛛は、家業のタペストリー工房を営み、ブルジョワが「親友」とみなしていた温和で勤勉な実母を象徴しています。また、糸で傷を繕い、癒す修復家である一方、周りを威嚇する捕食者でもあると説明しており、母性の複雑さを表現するものでもあります。

さらに、蜘蛛が巣作りのために体内から糸を出すように、自身の体から負の感情を解放するために作品を作っているとも語っています。蜘蛛は彼女の自画像でもあるのです。

左
《蜘蛛》
1997年
鋼、タペストリー、木、ガラス、布、ゴム、銀、金、骨
449.6×665.5×518.2 cm
撮影：Maximilian Geuter
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

右
《かまえる蜘蛛》
2003年
ブロンズ、茶色く磨かれたパティナ、ステンレス鋼
270.5×835.7×627.4 cm
撮影：Ron Amstutz
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

ブルジョワの世界観を伝える自身の言葉を展示室の壁面に掲出

ブルジョワは才能のある文筆家でもありました。膨大な日記や手紙のほか、自身の精神状態を分析した数百もの記録が残されています。これらの文章は啓示的で、不安、怒り、嫉妬、殺意、罪悪感、同情、感謝、愛といった複雑な感情や心理状態を掘り起こしています。本展では作品に加え、ブルジョワが書き綴った言葉も会場各所に掲出します。

ジェニー・ホルツァーによるルイーズ・ブルジョワの言葉を用いた作品などを展示

言葉を用いた作品で世界的に知られるコンセプチュアル・アーティスト、ジェニー・ホルツァー（1950年米国オハイオ州生まれ）は、1990年後半から生前のブルジョワと交友関係を築き、彼女の文章に強い関心を抱いています。2022年にはスイスのバーゼル市立美術館で開催されたブルジョワの展覧会にキュレーターとして携わり、ブルジョワの言葉を使用した映像作品をバーゼル市内に点在する建築物のファサードに投影しました。今回は、和訳した文章も用いた、本展のための新作を展示します。

また、本展では、ニューヨークのアンダーグラウンド・シーンで活躍したスーザン・クーパー（1952-2023年）が、ブルジョワが1978年の自作《対決》内で企画したパフォーマンス《宴／ボディ・パーツのファッションショー》に出演している記録映像を展示します。

ブルジョワの活動歴とアーカイブ資料を展示

ルイーズ・ブルジョワの98年間の人生とアーティストとしての70年ものキャリアの全貌を、約10メートルの年表で紹介します。また、精神分析の記録、展覧会のチラシ、作家の自伝的映像などのアーカイブ資料に加え、ブルジョワが愛用していたゲランのフレグランス「シャリマー」の香水瓶を展示。その場で香りも体験できます。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展の構成

本展は、ブルジョワの創造の源であった家族との関係をもとにした３つの章から構成されています。第１章「私を見捨てないで」では母との関係、第２章「地獄から帰ってきたところ」では父との確執、そして第３章「青空の修復」では、壊れた人間関係の修復と心の解放が主なテーマとなっています。

さらに、各章をつなぐ２つのコラムでは、初期の重要作品を年代順に紹介しています。

第１章　私を見捨てないで

ブルジョワは一生を通じて、見捨てられることへの恐怖に苦しみました。「私を見捨てないで」と題した本章で紹介する作品群は、この恐れが、母親との別れにまでさかのぼることを示唆しています。ブルジョワは両義的かつ複雑性に満ちた「母性」というテーマのもと《自然研究》をはじめとする作品を制作する中で、母と子の関係こそが、将来のあらゆる関係の雛形になるという確信に至りました。

また、彼女はかつて「わたしの彫刻はわたしの身体であり、わたしの身体はわたしの彫刻なのです」と語りました。ブルジョワの作品群には人体の断片のイメージが度々登場しますが、そこには不安定な精神状態や、精神の崩壊の象徴や兆候が表わされています。

（左）《良い母》（部分）　2003年
布、糸、ステンレス鋼
彫刻とスタンド：109.2×45.7×38.1 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

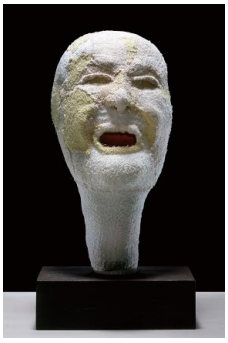
（右）《自然研究》　1984年
ゴム、ステンレス鋼
彫刻：76.2×48.3×38.1 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

第２章　地獄から帰ってきたところ

第２章「地獄から帰ってきたところ」では、不安、罪悪感、嫉妬、自殺衝動、殺意と敵意、人と心を通わせることや依存することに対する恐れ、拒絶されることへの不安など、心の内にあるさまざまな葛藤や否定的な感情が作品をとおして語られています。人間の頭部を象った《拒絶》はその一例です。

ブルジョワは、彫刻を創作することを一種のエクソシズム（悪魔払い）、つまり望ましくない感情や手に負えない感情を解き放つ方法だと信じていました。素材に抗って作業することが、攻撃的な感情のはけ口になりました。

また、彼女は精神分析を通じ、自らの作品の多くが父親に対する否定的な感情から生まれたということを理解しました。インスタレーション作品《父の破壊》では、横柄で支配的な父親の像を食すことで復讐を果たすという幻想を表現しています。この独創的な作品は彼女の芸術活動の一つの頂点であり、波打つ抽象的な風景から、より性的に露骨な身体部位の表現まで、1960年代から1970年代初頭にかけて彼女がフォルムや素材で探求してきたことの集大成ともいえます。



（左）《拒絶》　2001年
布、鋼、木、鉛、アルミニウム、ガラス
彫刻：63.5×33×30.5 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

（右）《父の破壊》　1974年
アーカイバル・ポリウレタン樹脂、木、布、照明
237.8×362.3×248.6 cm
所蔵：グレンストーン美術館（米国メリーランド州ポトマック）
撮影：Ron Amstutz
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

第3章　青空の修復

ブルジョワは自らを「サバイバー」と考え、自身の芸術が松葉杖や義肢のように機能することで様々な苦難を克服できたと信じていました。本展の最終章「青空の修復」では、彼女の芸術がいかにして、意識と無意識、母性と父性、過去と現在のバランスを整え、心に平穏を取り戻そうとしたのかに迫ります。たとえば、《トピアリー IV》と《雲と洞窟》は回復と再生の力を見事に表現しています。それは、ブルジョワが言うところの「芸術は正気を保証する」にほかなりません。

アーティストとして、自らの無意識の領域に直接アクセスできると信じていたブルジョワは、内なる性的および攻撃的なエネルギーや衝動を、芸術表現として昇華できると確信していました。彫刻をはじめとする彼女の作品は、人間の心理状態を象徴する表現であり、混沌とした自らの感情に秩序をもたらそうとする試みです。

また、ブルジョワは自身や家族の衣服など彼女の人生に関わる布を用いることで、過去を永遠のものにしようとしました。縫い合わせる、繋ぎ合わせるという行為は、別れや捨てられることに対する恐れを払いのけることを象徴すると同時に、一家のタペストリーの修復工房を営んでいた母親と自分を無意識のうちに重ね合わせていることの証でもあるのです。

（左）
《雲と洞窟》　1982-1989年
金属、木
274.3×553.7×182.9 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

（右）
《トピアリー IV》　1999年
鋼、布、ビーズ、木
68.6×53.3×43.2 cm
撮影：Christopher Burke
© The Easton Foundation/Licensed by JASPAR, Tokyo, and VAGA at Artists Rights Society (ARS), New York

コラム1　堕ちた女—初期の絵画と彫刻

ここでは、1938年にアメリカ人美術史家のロバート・ゴールドウォーターと結婚し、移り住んだニューヨークで最初の10年間に制作された絵画と彫刻に注目します。

女性と建物が合体した絵画群「ファム・メゾン（女・家）」（1946-1947年）、故郷フランスに残してきた家族や友人らがモデルとなった彫刻群「人物像」（1946-1954年）など、初期の重要なシリーズを展示します。なかでも初期絵画作品は、近年注目を浴び、評価が進んでいます。この時期に絵画のモチーフとなった自画像、建物、樹、女性像は、その後60年にわたり作品の中に繰り返し現れてきました。

コラム2　無意識の風景—1960年代の彫刻

コラム2では、1951年の父の死後、精神分析に専念し創作活動を休止していた状態から徐々に抜け出し、本格的に制作を再開した1960年代の作品を展示しています。

1940年代に木彫の「人物像」シリーズにみられた垂直性は、1960年代初頭から、水平性と内面性を特徴とする形態に移行していきます。樹脂、石膏、ラテックスなどの柔らかい素材を用い、成形や流し込みによって、ブルジョワの人体描写はますます抽象的になりました。たとえば、《隠れ家》（1962年）のように、巣穴や巣のような作品は、シェルターの持つ、保護と隔離の両方の性質を想起させます。1960年代後半から1970年代初頭にかけて、大理石やブロンズの彫刻やドローイング群は、再び垂直性を帯び、身体や風景のようなフォルムの反復がみられるようになりました。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

展覧会関連プログラム

キュレータートーク「ルイーズについて語ろう」 ※日英同時通訳・手話同時通訳付

ルイーズ・ブルジョワの作品の保存・研究と普及を行うイーストン財団のキュレーター、フィリップ・ララット＝スミス氏を迎え、本展担当キュレーターと、美術史におけるブルジョワ作品の重要性、ブルジョワのキャリアや人生について語ります。

出演：フィリップ・ララット＝スミス（イーストン財団キュレーター）、椿 玲子（森美術館キュレーター）、
矢作 学（森美術館アソシエイト・キュレーター）
モデレーター：片岡真実（森美術館館長）
日時：2024年9月29日（日）14:00-15:30
会場：森美術館オーディトリアム（六本木ヒルズ森タワー53階）
定員：70名（要予約）
料金：無料（ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です）
お申し込み：受付は終了しました

＊プログラムは予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
＊このほかにも、おやこでアート、スクールプログラム、アクセスプログラムなどさまざまな企画を予定しています。
プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当
E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

音声ガイド

本展出展作品の解説や見どころが収録された音声ガイドをウェブアプリにてご用意しています。
ナビゲーターは俳優の二階堂ふみさんが務めます。
＊ご自身のスマートフォンをご持参ください。

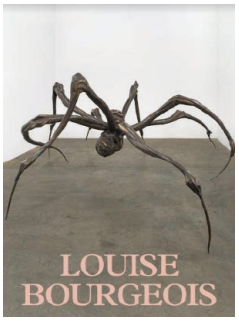
ナビゲーター：二階堂ふみ
ガイド件数：全16件
＊このうち1件は、六本木ヒルズを象徴するパブリック・アート《ママン》について本展担当キュレーターと二階堂ふみさんが語り合う特別対談となります。会期中、《ママン》の下に設置された二次元コードから、この対談のみどなたでも無料でお聞きいただけます。
解説時間：約30分　**言語**：日本語、英語　**料金**：600円（税込）
企画・制作：スタイリンクス
監修：森美術館

プロフィール
二階堂ふみ（FUMI NIKAIDO）
1994年、沖縄県出身。映画『ガマの油』（2009年）でスクリーンデビュー。その後も、映画『ヒミズ』（2012年）、『リバーズ・エッジ』（2018年）、『翔んで埼玉』（2019年）、『月』（2023年）、ドラマ「エール」（2020年）、「Eye Love You」（2023年）などに出演。写真家としても活動。2024年2月27日より配信されているハリウッド制作ドラマ『SHOGUN 将軍』にメインキャストの一人として出演している。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

展覧会カタログ

椿 玲子（森美術館キュレーター）、ジェイミソン・ウェブスター（精神分析家・文筆家）による論考のほか、本展企画監修者のフィリップ・ララット＝スミス（イーストン財団キュレーター）が選出したブルジョワの精神分析的著述などを掲載。表紙カバー2種のうち、ひとつは会場限定で販売します。



会場限定

サイズ：A4判（28.2×21cm）　**ページ数**：320ページ
言語：日英バイリンガル
価格：3,740円（税込）　**発売日**：2024年9月25日（水）
編著：森美術館
発行：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（美術出版社）
販売場所：森美術館内「ルイーズ・ブルジョワ展」特設ショップ（六本木ヒルズ森タワー53階）、森美術館 ショップ（六本木ヒルズウェストウォーク3階）、森美術館オンラインショップ（https://shop.mori.art.museum/）

展覧会特設ショップ

「ルイーズ・ブルジョワ展」特設ショップが会場内に登場。展覧会オリジナルグッズのほか、ブルジョワが愛用していたゲランのフレグランス「シャリマー」、ファッションブランドSOPH.とのコラボレーション商品も販売します。

◇ 展覧会オリジナルグッズ

六本木ヒルズを象徴するパブリック・アート《ママン》をはじめ、ルイーズ・ブルジョワの作品やポートレートを使用したオリジナルグッズを多数揃えています。

ミルクアーモンド　2,160円（税込）
ブルジョワの実母を象徴し自画像でもある蜘蛛の彫刻《ママン》をモチーフにしたピンクの缶に、《ママン》がお腹に抱える白い卵を連想させるミルクアーモンドが入っています。

紅茶ボックス（黒・赤）　各2,376円（税込）
ミルクアーモンドと一緒に紅茶やハーブティーはいかがでしょうか。
ブルジョワの言葉がデザインされた黒いボックスには紅茶（ディンブラ）が、《授乳》（2007年）がデザインされた赤いボックスにはハイビスカスとローズヒップをブレンドしたハーブティーが入っています。お召し上がりになった後は小物入れにもお使いいただけます。

◇ ゲランのフレグランス「シャリマー」が登場

ブルジョワは、フランスの化粧品メーカー「ゲラン」のフレグランス「シャリマー」を愛用していました。ブルジョワは「香りは記憶のように、現れては消え、また現れる……それは香りが時間の継続であることの証。私は何十年間も忠実にシャリマーを愛用してきた。それは忠誠心。それは時間」という言葉を残しています。第3章で展示する彫刻《蜘蛛》（1997年）では、蜘蛛が守る檻のなかに、ブルジョワが大切に保管していたさまざまな私物とともにシャリマーの香水瓶が飾られています。また最後の展示室では、遺品の香水瓶を展示。その場で香りも体験できます。
「ルイーズ・ブルジョワ展」特設ショップでは、ブルジョワの愛した香り「シャリマー」を販売します。

シャリマー　オーデパルファン　スプレーボトル50ML　16,390円（税込）
香水　ボトル30ML　48,400円（税込）
オーデトワレ　スプレーボトル50ML　14,410円（税込）
ミレジム　ジャスミン　17,710円（税込）

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

◇SOPH.特設コーナー

国内外のさまざまな現代美術家とのコラボレーションをおこなってきたメンズファッションブランドのSOPH.が、本展にあわせて、ブルゾン、スウェット、シャツ、Tシャツからなるカプセルコレクションを制作。「ルイーズ・ブルジョワ展」特設ショップにて販売します。“服を通じてアートに興味を持ってもらう”という、同ブランドが黎明期から掲げている哲学の一つを体現した特別なプロジェクトです。実店舗は本展特設ショップのみでの販売となります。（SOPH.オンラインストアにて同時販売）

Louise Bourgeois：FLIGHT JACKET　99,000円（税込）
HOODIE　39,600円（税込）
SWEATSHIRT　42,900円（税込）
L/S SHIRT　39,600円（税込）
S/S TEE（I Have Been to Hell and Back）　20,900円（税込）
S/S TEE（The Telephone Call from the Slammer, ）　20,900円（税込）

お問い合わせ：森美術館 ショップ 53
Tel：03-6406-6118　営業時間：10:00-22:00（祝日を除く火曜日は17:00まで）　＊美術館の開館時間に準ずる

▌レストランTHE SUN & THE MOON：ルイーズ・ブルジョワ・コース

六本木ヒルズ森タワー52階のレストランTHE SUN & THE MOONではコラボレーションメニュー「ルイーズ・ブルジョワ・コース」を展開します。ニューヨーク近代美術館が1977年に出版した「Artists' Cookbook」でブルジョワ本人が紹介した、フランスやイタリアの伝統料理のレシピをアレンジしてコースにしました。蜘蛛や渦巻きなど、ブルジョワ作品の代表的なモチーフもメニューに表現されています。展覧会の鑑賞とあわせて、ぜひお楽しみください。

メニュー：ランチコース（全4皿）5,500円（税込）、
ディナーコース（全5皿+グラスシャンパン）10,000円（税込）
＊別途サービス料10%をいただきます。
＊森美術館・展望台・森アーツセンターギャラリーの入館券をお持ちでないお客様は別途ビューチャージをお一人あたり500円いただきます。

提供期間：2024年9月25日（水）－2025年1月19日（日）
※12月21日～25日のクリスマス特別営業期間は除く

提供時間：ランチ　11：00-17：00（L.O15：00）
ディナー　18：00-22：00（L.O20：00）

ディナーコース 10,000円（税込）

お問い合わせ：THE SUN & THE MOON（Restaurant）
Tel: 03-3470-0052　Web: http://thesun-themoon.com/moon/

▌お得な割引情報：「リピーター割」で2回目半額!

展示総数が100点超となる本展では、じっくりと展覧会をご堪能いただけるよう、「リピーター割」を実施します。オンラインでチケットを購入した方に、2回目の鑑賞料金が半額となる割引クーポンを発行します。ぜひご利用ください。

期間：2024年9月25日（水）－2025年1月19日（日）「ルイーズ・ブルジョワ展」会期中
対象：専用オンラインサイトで「ルイーズ・ブルジョワ展」のチケットを購入し、使用した方
内容：オンラインチケットを使用した翌日に、会期中ご利用いただける半額割引クーポンを発行します。専用オンラインサイトにログインし、決裁画面で「お手持ちのクーポンを使う」から「ルイーズ・ブルジョワ展利用」を選択すると割引が適用されます。なお、クーポンの発行は1アカウントにつき1回のみとなります。

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

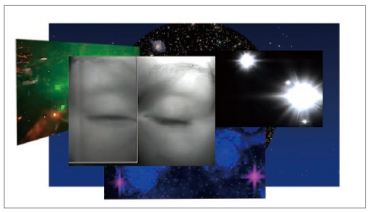
森美術館「ルイーズ・ブルジョワ展：地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ」同時開催小プログラムのご案内

会期：2024年9月25日（水）– 2025年1月19日（日）　**会場**：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

MAM SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン020：ゴースト―インターベンション



ハイグ・アイヴァジアン
《あなたの星はすべて、私の靴の塵にすぎない》
2021年
ビデオ
17分34秒

主催：森美術館
企画：コラクリット・アルナノンチャイ、クリスティーナ・リー
　　徳山拓一（森美術館キュレーター）

https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamscreen020/

MAM PROJECTS

MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト032：バディ・ダルル

バディ・ダルル
《扉や窓のない国》（部分）
2016-2024年
ボールペン、マーカー、ブリストル紙、マッチ箱
サイズ可変
Courtesy：The Third Line（ドバイ）
展示風景：「私たちの世界が燃えている」パレ・ド・トーキョー（パリ）2020年
撮影：オレリアン・モル
画像提供：パレ・ド・トーキョー

主催：森美術館
助成：ヴィラ九条山
　　アンスティチュ・フランセ
　　ベタンクールシュエーラー財団
企画：マーティン・ゲルマン（森美術館アジャンクト・キュレーター）

ヴィラ九条山は、フランスのヨーロッパ・外務省の文化機関です。アンスティチュ・フランセの支部の一つとして活動し、主要メセナのベタンクールシュエーラー財団とアンスティチュ・フランセパリ本部の支援を受けています。

https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/mamproject032/

プレスリリース　お問い合わせ　森美術館 広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 070-4303-7219（日比）、070-4303-0744（松川）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp